

MUSEUM PRESS

鳥取県立博物館ニュース

Newsletter of the Tottori Prefectural Museum

SEPTEMBER 2012 No.
平成24年9月発行

14



須田国太郎 《犬》1950年 東京国立近代美術館

企画展 10月20日(土)～11月25日(日)

「須田国太郎展 -没後50年に顧みる-」 2

企画展 2013年1月12日(土)～2月24日(日)

「発掘された日本列島2012」 3

企画展 2013年2月16日(土)～3月24日(日)

「フナイタケヒコ 絵画の光景」 3

[自然] コラム「『理科嫌い』とは何か? -博物館での理科教育のすすめ-」 .. 4

[人文] 資料紹介「麒麟獅子舞」 5

コラム「伏苓 -白河法皇の求めた薬用キノコ-」

[美術] 美術常設企画展示「生誕100年 福留章太展」10月16日(火)～12月3日(月) ... 6

新収蔵品紹介「前田昭博《白瓷面取壺》」

[山陰海岸学習館だより]山陰海岸ジオパークを3D立体映像で楽しもう! 7

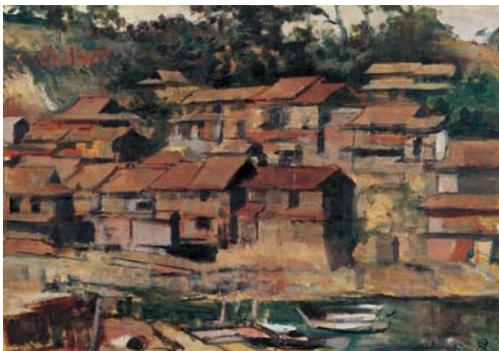
講座・観察会・毎週土曜日はアートの日! 8

40th Anniversary 開館40周年

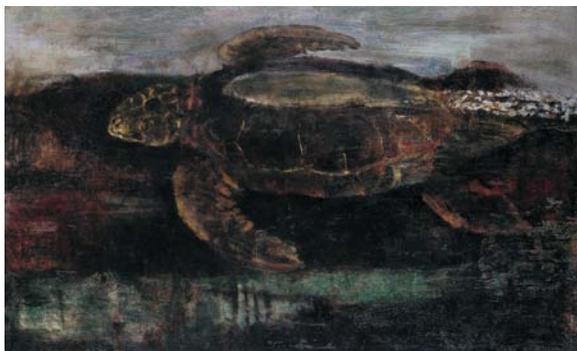


須田国太郎展 — 没後50年に顧みる —

家並みの手前に大きくクローズアップされた黒い犬。垂れた耳が特徴のシベリア犬の目は赤く、強烈な印象を与えています。ここでは中景を省き、地面に強い光を当てることで、黒い犬はコントラストの対比によりシルエットとして浮かび上がっています。本号の表紙を飾るこの作品は、洋画家・須田国太郎(1891-1961)の代表作《犬》です。



《漁村(乙)》1936年 鳥取県立博物館



《海亀》1940年 京都国立近代美術館

京都に生まれた須田は、京都帝国大学と大学院で美学・美術史を専攻するとともに、関西美術院でデッサンを学びました。そして、第一次世界大戦終結後の1918年、ヨーロッパに渡ります。当時、多くの日本人画家がフランスのパリを目指す中、須田はスペインのマドリードを留学の拠点に選びました。そこでは、ヨーロッパの最新の流行を模倣するのではなく、プラド美術館などで、ヴェネツィア派の色彩理論やバロック絵画の明暗法の研究を続けます。画家であると同時に学者であった須田の生涯は、以後、写実研究に向けられることとなります。

1923年に帰国した後も、大学などで美術史を講じるかわら絵画制作

を続け、1932年、41歳の時に東京銀座の資生堂画廊で初個展を開催します。これは、留学中の作品をはじめ、これまでに描きためてきた作品を世間に披露する機会であったとともに、画家須田国太郎が画壇に名前を馳せるきっかけとなりました。翌年京都に独立美術研究所が開設され、個展を見ていた里見勝蔵などの紹介により、1934年独立美術協会会員となります。西洋絵画を基礎にしながら、日本独自の油彩画を生み出そうと努力を重ね、その成果は同協会展を中心に発表されました。対象を十分な量感で捉え、深みのある暗色を基調とした須田の絵画は、光と影が交錯する重厚な画面として知られています。

京都にアトリエを構えながらも、須田はしばしば山陰地方にも写生に訪れ、田後や隠岐などの風景を描いています。また、友人で洋画家の浜田宣伴

の誘いを受け鳥取大学で集中講義を担当し、郷土にゆかりのある作品を残しました。

このたびの展覧会では、岩美町田後の漁港を描いた3点の油彩画をはじめ、第一回個展出品作や独立美術協会出品作などを中心に、風景や草花、鳥や動物などを描いた主要作品約130点を紹介



《校倉(乙)》1943年 京都国立近代美術館



《水田》1938年

し、その画業を回顧します。他に類を見ない深遠な境地に到達した須田国太郎の作品にどうぞご期待下さい。

(美術振興課 林野 雅人)

- 会 期:平成24年10月20日(土)～11月25日(日)
- 会 場:鳥取県立博物館 第1・2特別展示室
- 料 金:一般800円(前売/団体600円)
- ※次の方の入館料は無料です。(大学生以下、70歳以上の方、学校教育活動での引率者、障がいのある方・要介護者等及びその介護者)
- 【主催】鳥取県立博物館、日本経済新聞社
- 【特別協力】京都国立近代美術館
- 関連行事

- ◎特別講演会「須田国太郎—沈思する絵画」
- 日時:10月20日(土)14:00～15:30
- 会場:当館2階講堂(参加費無料)
- 講師:熊田司氏(和歌山県立近代美術館館長)
- 定員:250名(参加費無料)
- ◎アートセミナー「須田国太郎と山陰」
- 日時:11月3日(土・祝)14:00～15:30
- 会場:当館2階会議室(参加費無料)
- 講師:林野雅人(当館主任学芸員)
- 定員:40名(参加費無料)
- ◎アートシアター《世界美の旅「ティツィアーノ」「ゴヤ」
- 日時:11月17日(土)14:00～15:00
- 会場:当館2階講堂(参加費無料)
- 定員:250名(参加費無料)
- ◎ギャラリートーク(企画展担当学芸員による展示解説)
- 日時:10月27日(土)、11月10日(土)、11月24日(土)午後2時～3時
- 会場:本展展示会場(要観覧料)

企画展 2013年1月12日(土)～2月24日(日)

「発掘された日本列島2012」

全国で毎年7,000件以上も行われている遺跡の発掘調査。企画展「発掘された日本列島2012」は、その中でも近年特に注目を集めた数多くの貴重な出土品を展示・紹介するものです。旧石器時代から明治時代まで、全国各地の遺跡から見つかった出土品が一堂に展示されます。また、特集として、「東日本大震災における文化財保護の取り組み」についても紹介しており、震災復興に伴う調査成果や



本高弓ノ木遺跡出土のう

発掘された弥生時代の津波痕跡なども展示します。一級の資料を間近で見ることができるまたとないチャンスですので、ぜひご覧ください。

とくに今回は、鳥取市本高古墳群・本高弓ノ木遺跡の出土品が^{もとだか}出展されます。本高古墳群では丘陵上に鳥取平野最古の前方後円墳(14号墳:全長63m)が確認され、すぐ眼下の本高弓ノ木遺跡では、同時期の木を組んだ水利施設や「土のう」(日本最古!)が見つかっています。当時の高度な土木技術やそれを行使した首長の存在を物語るもので、いずれも鳥取県の歴史に新たな1頁を加えた貴重な資料です。

ところで、今年、平成24年度は鳥取県立博物館が開館して40周年の記念すべき年です。それとともに鳥取県文化財保護条例がはじめて施行されて60年、鳥取県教育委員会に文化課



堂ヶ谷1号経塚(静岡県)出土品

(現文化財課)が設置されて40年、鳥取県埋蔵文化財センターが設立されて30年など、鳥取県の文化財に関する節目の年でもあります。

そこで、地域展示として、「鳥取の遺跡発掘クロニクル」を開催し、これまでに鳥取県内で行われた数多くの遺跡発掘の歴史を、出土品とともに振り返ります。特に注目を集めた遺跡や、学史や記憶に残る遺跡など、鳥取県を代表する遺跡の出土品を展示・紹介します。こちらもどうぞご期待ください。(学芸課 東方 仁史)

企画展 2013年2月16日(土)～3月24日(日)

シリーズ 鳥取の表現者 File.04

フナイタケヒコ

県立博物館では2009年より、郷土にゆかりのある活躍めざましい作家たちを取り上げる連続企画「シリーズ鳥取の表現者」を開催し、これまで陶芸やイラストレーション、ランドアートといった幅広いジャンルにわたる作家たちの活動を紹介してきました。4回目となる今年度は鳥取在住の画家、フナイタケヒコの個展を開催します。

1942年に鳥取に生まれたフナイは鳥取大学を卒業した後、60年代末頃にミニマル・アートなどの先端的な動向に触発され、様々な実験的手法による立体を制作し、県展や鳥取市展

に入選、入賞を重ねます。フナイは鳥取に現代美術を導入したスペースプランの一人として活躍したことでも知られています。この後、1978年に立体からドローイングへと表現を変えて、今日にいたるまで一貫して絵画表現の可能性を追求してきました。豊かな色彩にあふれた作品からモノクローム、物質的なペインティングから繊細なドローイングまでフナイは作品を常にシリーズによって制作し、シリーズをとおして作品相互の関係、作品の物理的な基盤、作品と展示空間の関係、あるいは支持体とイメージの関係といった多様な問題を問うてきました。



アシュラ(光) 1998年 キャンバス・油彩 F130

今回の展覧会では絵画に回帰した後、1978年頃から今日にいたるフナイの仕事の展開を主要な6つのシリーズ、約250点の作品で回顧します。30年以上にわたって真摯に絵画の探求を続けてきたフナイの軌跡を一望するまたとない機会となるでしょう。

(美術振興課 尾崎 信一郎)

「理科嫌い」とは何か？—博物館での理科教育のすすめ—



写真1: 中学校理科の教科書



理科嫌い、理科離れがいわれて久しいです。現在でも全国で理科離れ対策が行われています。一方で、今年(2012年)の全国学力テストでのアンケートでは、理科の勉強が好きと答えた小学生が82%と最も高く、国語63%、算数65%を大きく上回っています。これは中学生でも同じです。そして何より、博物館の自然展示室を訪れた児童生徒の皆さんは楽しそうです。理科嫌いとはどういうことなのでしょう？

いつ頃からか、中学校理科の教科書のタイトルが「理科」ではなく、「サイエンス/科学」となりました【写真1】。理科を英訳すると science、scienceを和訳すると科学(自然科学)ですが、理科=scienceなののでしょうか？ 学習指導要領の小学校理科の目標は『自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。』です。この中には、日本人的自然観と、西洋のキリスト教的自然観が混在しているという指摘もあり

て自然や生物は、あくまで客観的に観察する対象物です。主観が入ってはいけませんし、感情や心情は邪魔をします。しかし、「自然に親しみ」「自然を愛する心情」という、古くからなじみのあるフレーズは、自然科学とは相いれないものではないでしょうか。

自然の中に普遍的な一般則があるという仮説を立て、それを客観的・合理的に確かめていく自然科学の根底には、自然は人と対等という自然観がありました。それに対し、日本では自然そのものが神であり、畏敬の念を抱き、あるがままに受け入れてきました。この自然観が「自然を愛する」などに息づいているのかもしれませんが。

私には、日本の理科には自然科学以外の要素も含まれているから「科学(自然科学)」でなく、「理科」だと思われるのです。しかし、最近の教科書のタイトルが示すとおり、もし科学の部分のみに重点がおかれ、それが「嫌い」を増やしているのなら、一考の価値はありそうです。今年全国学力テストでは、理科の「授業の内容がよくわかる」と答えた小学生は86%、中学校では65%でした。この21%の差が他の教科より大きいので、理科離れとされて

います。「科学的な見方や考え方」は自然科学です。自然科学は、自然・生物現象の中に普遍的に存在する法則を探究します。したがって、人にと

しかし、この21%の差は、「理科」と「科学」の理解度の差としても説明できるかもしれません。どちらにしても、「科学的な見方や考え方」と「自然を愛する心情」の違いの認識は重要だと思います。世界的に自然破壊が問題の昨今、自然保護や環境保全の学問が進歩しています。今こそ「日本流の理科教育」が大切になってきたと思います。自然を客観的な対象物とみるだけでなく、愛する対象としてみることも大切ということです。そのための心情の育成には、問題解決の能力や科学的な考え方の育成とは異なる教育が必要なのだと思います。それを含むのが「理科教育」といえるかもしれません。



写真3: ヒサマツミドリシジミ
(久松山の久松を「ヒサマツ」と訓読みにした)

博物館には、過去から現在までの多くの資料があります。科学的な見方や考え方を学ぶには、博物館はもちろんですが、学校での実験・観察でもよい方法があるでしょう。私は、博物館でこそ「理科教育」と思っています。約200万年前の鳥取県で、噴火によって放出された巨大な「火山弾」【写真2】、鳥取市の久松山で発見された「ヒサマツミドリシジミ」

【写真3】、これらを見ることで、どんな心が育まれるでしょう。鳥取県立博物館には自然、歴史、民俗、美術の展示があるのも魅力です。民俗展示では、自然と共に生きてきた中で生まれた信仰や祭りを知ることができます。私たちの祖先は、鳥取県の自然に何をみたのでしょうか。

(学芸課 川上 靖)



写真2: 扇ノ山の火山弾(長さ約110 cm)

ています。

麒麟獅子舞

鳥取県を代表する民俗芸能に麒麟獅子舞があります。

県東部に在住の方にはお馴染みのものでしょう。想像上の霊獣・麒麟をかたどった、面長で一本の角を持つ金色の獅子頭に、カヤと呼ばれる胴体の幕から舞手の装束まで朱づくめの獅子は、伊勢の太神楽獅子など神楽獅子に比べてもユニークな獅子舞です。

今まで、鳥取県の無形民俗文化財にも何件か指定されており(宇倍神社、



麒麟獅子舞の展示コーナー

大和佐美命神社、賀露神社、倉田八幡宮、下味野神社、澤神社、蛭井神社のものなど)、このうち「大和佐美命神社獅子舞」は、国の記録作成等を講ずべき無形の民俗文化財に選択されていました(以下「国選択」と略称)。現在では、すべてのものが「因幡の麒麟獅子舞」として「国選択」され(平成21年3月11日)、将来は国の重要無形民俗文化財に指定されるのではないかと期待されています。

麒麟獅子舞の特徴は、狸々が先導する、囃子が笛・鉦・太鼓で奏でられる、などあります。が、やはり一番の特徴は、因幡地方を中心に伝播しており、地方的特色が著しいという点です。

その起源を考えるには、江戸時代に鍵がありそうです。慶安3(1650)年、鳥取藩の初代藩主池田光仲が、鳥取東照宮(旧樽谿神社)を建立し、日光東照宮の御神霊を勧請しました。その後「権現祭」を始めたときに舞われたのが始まりと考えられています(野津龍『因幡の獅子舞研究』)。



北海道・利尻町の麒麟獅子舞(平成24年6月20日撮影) 利尻町教育委員会提供

江戸時代の「権現祭」の様子を伝える資料「因幡東照宮祭礼絵巻」にも、御幸行列の中に狸々と麒麟獅子が描かれています。

以来、鳥取東照宮を起点にして、麒麟獅子舞は因幡一円に広まり、現在約150以上の地域で舞われていると言われています。

先ほど「因幡地方を中心に」と言いましたが、実は兵庫県北西部に約10ヶ所(「但馬の麒麟獅子舞」として平成21年3月11日に「国選択」)、鳥取市民が明治時代に移住した北海道に2ヶ所(釧路市、利尻町)伝わっています。

これだけ多くの地域で今も伝承されているというのは素晴らしいことです。その背景に、地元の氏神に奉納する心意気や、芸能を次世代に継承する活動があったことも忘れてはなりません。(学芸課 福代 宏)

コラム

ぶくりょう 伏苓-白河法皇の求めた薬用キノコ

平安時代後期の貴族、藤原宗忠(1062-1141)の日記『中右記』は、天永3年(1112)7月4日の出来事として、以下を伝えています。

(前略)「因幡国から『伏苓』という薬が出てきたことを聞いた。それが必要である」との法皇のご意向が伝えられた。「急ぎ使者を遣して入手し、進上いたします」と申し上げた。

時の最高権力者、白河法皇(1053-1129)の求めた「伏苓」とは、どのような「薬」だったのでしょか。

伏苓とは

伏苓は、アカマツやクロマツの根に寄生するサルノコシカケ科の菌類で、「茯苓」とも記され、「マツホド」、「マツポ」、「ホヤ」とも呼ばれます。利尿、健胃、精神安定などの薬効があり、現

在も漢方薬に使用されています。

現存する日本最古の医術書『医心方』(984年成立)によると、平安時代には主に内臓疾患の薬の材料として用いられたようです。

因幡産の伏苓

平安時代の法令集『延喜式』(967年施行)所収の、各国が納める薬用植物や菌類の規定によると、伏苓は毎年、因幡国から2両(447グラム)、全国合わせて366斤13両(約82キログラム)が都に納められました(保管、処方方は朝廷の医療を担当する典薬寮が行います)。

しかし12世紀には、国の支配を委ねられた上級貴族が必要に応じて物品を献上する方式へ変わりました。宗忠に伏苓献上が命じられたのは、当時、彼に因幡国が委ねられていたからです。



伏苓<乾燥標本>(千葉県立中央博物館蔵)

白河法皇が求めた理由

天永3年、法皇は数え年で60歳、胃腸を患っていたのでしょうか。法皇が77歳まで存命したことをみると、薬が効いたのかも知れません。

ところで『医心方』は、伏苓をニキビやソバカスの薬の材料ともしています。あるいは、法皇は養育していた藤原璋子(当時12歳、のち鳥羽天皇の中宮、崇徳、後白河天皇の母)の美容のために必要としたのかも知れません。

(学芸課 石田 敏紀)

生誕100年 福留章太展

当館ではこの秋、鳥取県ゆかりの洋画家・福留章太(1912~1988)の回顧展を開催します。

福留は高知市に生まれ、神戸市で少年時代を過ごし、1933(昭和8)年、東京美術学校(現 東京藝術大学)に進学しました。卒業後も積極的に作品制作と発表を続けますが、1943(昭和18)年に応召され、満州に配属されます。復員後は兄の疎開先を頼って三朝町に移り住み、1947(昭和22)年に倉吉市に転居しました。以後は没するまで同市に暮らし、文化団体「砂丘社」に所属して意欲的な制作活動を行っています。

特に、1959(昭和34)年頃から晩年まで続けられた抽象絵画の制作は、当時の鳥取県における先駆的な試みとして大きな意義を有しています。その作品は時代ごとに幾つかの傾向に大別されますが、本展では、代表作によって年代順にご紹介する予定です。

例えば、福留は1960年代はじめ、ダイナミックな筆致と土壁のような荒々しい質感によって、アンフォルメル(不定形)と称される絵画を描きました。当初、それらの画面に具体的な形象は描かれませんでした。やがて、円や四角形、水平線や垂直線が描かれるようになり、60年代半ばより幾何学的な抽象作品へと移行していきます。

なかでも、1967(昭和42)年より開始され、10年間にわたって続けられた《増幅する》シリーズは、エンドウマメを思わせる楕円形が明快な色彩とともに反復され、観る者に強い印象を与えます。フラットな塗り方による明るく鮮やかな色彩と、鋭くはつきりした輪郭線は、福留の後期作品を大きく特徴付けるものです。

そして1978(昭和53)年以降は、曲線や直線、円の集積を人体に見立



福留章太《増幅する 15》1973年、油彩・カンヴァス、当館蔵

てた《アントロポス》シリーズの制作に継続的に取り組みました。アントロポスとは、人間を意味するギリシャ語です。福留は本シリーズによって、幾何学的な抽象表現に人間的な温かみやユーモアを盛り込むことに成功しました。

このたびの展覧会では、当館と倉吉博物館の所蔵品を中心に、福留の歩みをご紹介します。たゆむことなく続けられた色彩と形の探究を、この機会にどうぞご鑑賞ください。

(美術振興課 竹氏 倫子)

新収蔵品紹介

前田昭博《白瓷面取壺》

鳥取市河原町出身の前田昭博(1954年~)は、完成度の高い白磁作品により国内外で高い評価を受ける陶芸家です。当館では平成21年度、「シリーズ 鳥取の表現者 File.01 前田昭博 白瓷の造形」と題して、初期から近年までの前田の仕事を100点の磁器作品により紹介しました。そしてそのなかから3つの作品を選び、平成23年度に購入いたしました。ここではそのうちのひとつ、前田にとって記念碑的な初期の代表作《白瓷面取壺》【=写真】についてご紹介します。

大阪芸術大学で磁器づくりの初歩を学んだ前田は、卒業後は郷里の河原に戻りました。磁器生産とは無縁の土地で、指導者もいないなか、果敢にもひとりで白磁に取り組み始めた

のです。前田はこの時期、素焼をせずに釉薬をかけて本焼きする、いわゆる「生掛け」焼成(前田が影響を受けた富本憲吉が頻繁に使っていた技法)を行っていました。その理由は、この当時使っていた兵庫県出石の磁土(「へたれ」やすいとされる)で大きなサイズの作品、とくに面取りを施したものなどを成形すると、素焼の段階でしばしばひび割れが生じたからです。よって若き前田は、リスクを承知で、一発勝負の「生掛け」焼成で大作に挑みました。本作は、その中でもひび割れせずに無事焼成されたもののひとつで、1979年の第5回日本陶芸展に初入選し、賞候補にも挙げられました。失敗が重なり、陶芸の道を諦めようとも考えていたという前田にとって本作は、引き続き陶芸に邁進す



前田昭博《白瓷面取壺》
1979(昭和54)年 磁器 高さ39.0cm、直径30.0cm

ることを決意させた文字通り記念碑的な作品であると言えます。一方、大胆な陰影を生み出すその面取りには、1980年代後半から発表され始める力強い面取り作品の萌芽を見ることも可能ではないかと思えます。シンプルなれども味わいどころの多い、魅力的な作品と言えるでしょう。

(美術振興課 三浦 努)

山陰海岸ジオパークを3D立体映像で楽しもう!

鳥のように空を飛んだり、魚のように自由に海中を泳いだりしたいと思ったことはありませんか?

山陰海岸学習館では、『山陰海岸ジオパーク』の魅力をさらに感じてもらうために、山陰海岸ジオパークを3D立体映像で紹介する映像資料の制作を行っています。

映像の制作にあたり、空中、海中などの撮影は専用の3Dカメラで行い、これまでにない映像を意識して制作をしています。貴重なジオスポットである浦富海岸の複雑な海岸地形については、陸地や海上からだけでなく、モーターパラグライダーを使って空中からも撮影しています。切り立った崖に接近したり、岬をかすめ飛ぶような3Dの映像で、鳥になったような爽快な感じを味わうことができます。また、浦富海岸の海に潜り、海中の洞門をくぐったり、海の生き物の生き生きとした姿を撮影しています。手に届くような所にとつぜん魚が飛び出したり、魚の大群が目の前を横切るなど、魚になって海を泳いでいるような感覚を味わうことができます。

映像にはCGを使った3D立体映像も組み入れる予定です。魚の化石から実際の魚が飛び出すCGや浦富海岸のでき方などのCGが映像にアクセントを加え、日本海の誕生の秘密や浦富海岸のでき方など、山陰海岸ジオパークについての理解を深める内容になっています。

3D立体映像はなぜ立体に見えるのでしょうか。3Dの撮影では左右に並んだ2つのカメラが用いられます。そして、一つのスクリーンに左右のカメラで撮影された2つの映像が同時に映し出されます。右のカメラで撮った映像が右目に入り、左のカメラで撮った映像が左目に入るような仕組みがあれば、立体に見えるわけです。

その仕組みとして、学習館で公開する3D立体映像では偏光メガネ方式を用います。偏光メガネは右と左で異なる映像を通すように作られており、スクリーンに映し出された2つの映像が右目と左目にそれぞれ届くようになっています。

(写真1)は浦富海岸に見られる谷地形の写真です。二つの写真の間に下敷きなどで仕切りをして、左右の目でそれぞれの写真を見てください。そのうち写真が立体的に見えてきます。

3D立体映像で鳥や魚になって「山陰海岸ジオパーク」を楽しみませんか。3D立体映像は来年1月、山陰海岸学習館で公開予定です。

(山陰海岸学習館 山田 佳範)



(写真1) 浦富海岸の谷地形 (ステレオ写真)

■ 学習館で行う普及活動一覧(平成24年度下半期)

《天体観望会》

「ジオパークの秋の夜空を楽しもう!」
10月7日(日)午後6時半～午後8時半
場所/山陰海岸学習館

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)
定員:なし、申込不要

《野外観察会》

「山陰海岸ジオハイキング 駈馳山周回コース」
10月14日(日)午前9時～午後1時
場所/鳥取市岩戸～岩美町大谷(岩美町)

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)
定員:30名(先着順) 申込開始:9月30日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

「打ち上げ貝で宝さがし ～さまざまな形や色を楽しむ～」
10月28日(日)午前9時～正午 場所/城原海岸(岩美町)

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)
定員:30名(先着順)
申込開始:10月14日(日)～、電話のみ

《自然講座》

「化石クリーニングを体験しよう!」
11月4日(日)午後1時～午後3時
場所/山陰海岸学習館(岩美町)

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)
定員:20名(先着順)
申込期間:10月21日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

「はじめてのバード・ウォッチング」
12月1日(土)午前9時～正午
場所/湖山池(鳥取市)

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)
定員:20名(先着順) 申込開始:11月18日(日)～、電話のみ

《講演会》

「江戸時代鳥取藩の海岸絵図からみるジオパーク」
2月9日(土)午後2時～3時半
場所/山陰海岸学習館

対象:一般
定員:40名 申込開始:1月20日(日)～、電話のみ

※申込、問合せは山陰海岸学習館(電話:0857-73-1445)へ

鳥取県立博物館付属

山陰海岸学習館 San'in Kaigan Nature Museum

■入館料:無料
■開館時間:9時～17時
■休館日:毎週月曜日
(祝日の場合は翌平日が休館日)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日は開館)
年末年始(12月29日～1月3日)

【お問い合わせ】〒681-0001
鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4
電話:0857-73-1445
FAX:0857-73-1446
<http://site5.tori-info.co.jp/~museum/gakusyukan/>



県立博物館(本館)からのお知らせ

大学生までの学生・生徒の方、70歳以上の方は **入館無料** です。

4月から10月の企画展開催中の**土曜日、日曜日、祝日**は午後7時まで開館します。

※関西文化の日(11月17日(土)・18日(日))の常設展は全ての方が入館無料です。

INFORMATION お知らせ

講座・観覧会・毎週土曜はアートの日! LECTURE・FIELD STUDY・EVENT

※企画展の関連イベントについては、P2もご覧ください。

■自然部門 ■歴史・民俗部門 ■美術部門(毎週土曜はアートの日)

2012 10 OCT.	《ワークショップ》 落書きばんざい! -秋編- *雨天第3展示室	■10月6日(土) 14:00~16:00 / 玄関前外 ■幼児・小学生とその保護者 / 30名 / 無料 ※申込期間9月22日(土)~(電話申込・先着順)
	《野外観覧会》 おちばの中のモンスターをさがそう!	■10月13日(土) 13:00~16:00 / 水ノ山自然ふれあい館「響の森」(若桜町) ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 20名 / 無料 ※申込期間9月20日(木)~(電話申込・先着順)
	《ギャラリートーク》 テーマ展示3・コレクション展Ⅲ	■10月13日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
2012 11 NOV.	《野外観覧会》 きのこを調べる会	■10月14日(日) / 10:00~14:00 / 梅路公園(鳥取市上町) ■小学生~一般(小学生は保護者同伴) / 30名 / 無料 ※申込期間9月27日(木)~(電話申込・先着順)
	《特別講演会》 須田国太郎-沈思する絵画	■10月20日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《ギャラリートーク》 須田国太郎展	■10月27日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
2012 12 DEC.	《アートセミナー》 「須田国太郎と山陰」	■11月3日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 40名 / 無料
	《ギャラリートーク》 須田国太郎展	■11月10日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
	《アートシアター》 世界美の旅「ティツィアーノ」「ゴッダ」(60分)	■11月17日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
2013 1 JAN.	《ギャラリートーク》 須田国太郎展	■11月24日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
	《歴史講座》 狛犬シンポジウム-山陰・岡山・奈良の狛犬大集合!	■11月25日(日) 14:00~16:30 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
	《アートセミナー》 「画家 福留章太について」	■12月1日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 40名 / 無料
2013 1 JAN.	《アートセミナー》 絵と図-江戸時代の風景表現-	■12月8日(土) 14:00~15:30 / 会議室 ■高校生以上~一般 / 40名 / 無料
	《アートシアター》 マーク・カイデル監督作品「バルテュス」(51分)	■12月15日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《ギャラリートーク》 コレクション展Ⅳ	■12月22日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 要観覧料
2013 1 JAN.	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会	■12月23日(日) 14:00~15:00 / 歴史・民俗展示室 ■一般 / 30名 / 入館料
	《ワークショップ》 絵と文字のコラボレーション【墨で描く】	■1月5日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間12月15日(土)~(電話申込・先着順)
	《ギャラリートーク》 発掘された日本列島2012	■1月12日(土) 11:00~12:00 / 展示会場 ■一般 / 定員なし / 入館料
2013 1 JAN.	《アートシアター》 ヘルムート・ニュートン (105分)	■1月12日(土) 14:00~15:50 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《企画展連続講座》 調査者が語る鳥取の遺跡1	■1月13日(日) 14:00~16:00 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
	《ギャラリートーク》 発掘された日本列島2012	■1月19日(土) 11:00~12:00 / 展示会場 ■一般 / 定員なし / 入館料
2013 1 JAN.	《ワークショップ》*降雪がない時には中止となります。 雪でつくろう	■1月19日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 金額未定 ※申込期間1月5日(土)~(電話申込・先着順)

2013 1 JAN.	《歴史講座》 弥生のかごを編む(1)	■1月20日(日) 13:00~16:00 / 会議室 ■小学校高学年~一般 / 20名 / 200円(予定) ※申込期間12/21(金)~(電話申込・先着順)
	《ギャラリートーク》 コレクション展Ⅴ	■1月26日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
	《企画展講演会》 近年の発掘調査について	■1月27日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
2013 2 FEB.	《ギャラリートーク》 発掘された日本列島2012	■2月2日(土) 11:00~12:00 / 展示会場 ■一般 / 定員なし / 入館料
	《アートシアター》現代建築家シリーズDVD 「ジャン・ヌーベル 奇跡の美学」(55分)	■2月2日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《企画展連続講座》 調査者が語る鳥取の遺跡2	■2月3日(日) 14:00~16:00 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
2013 2 FEB.	《アートシアター》現代建築家シリーズDVD 「フランク・ゲーリー」(57分)	■2月9日(土) 14:00~15:00 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料
	《歴史講座》 弥生のかごを編む(2)	■2月10日(日) 10:00~16:00 / 会議室 ■小学校高学年~一般 / 20名 / 200円(予定) ※申込期間12/21(金)~(電話申込・先着順)
	《ギャラリートーク》 発掘された日本列島2012	■2月16日(土) 11:00~12:00 / 展示会場 ■一般 / 定員なし / 入館料
2013 2 FEB.	《トークセッション》【企画展関連】 「評論家赤津侃氏・フナイタケヒコ氏」	■2月16日(土) 14:00~15:30 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
	《企画展連続講座》 調査者が語る鳥取の遺跡3	■2月17日(日) 14:00~16:00 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
	《ギャラリートーク》 フナイタケヒコ展	■2月23日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
2013 2 FEB.	《民俗講座》 わら草履を編もう!	■2月24日(日) 13:00~15:30 / 会議室 ■一般 / 20名 / 200円(予定) ※申込期間1/25(金)~(電話申込・先着順)
	《アーティストトーク》【企画展関連】 フナイタケヒコ展	■3月2日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
	《歴史講座》 古文書を楽しむ(2回連続)	■3月3・17日(日) 14:00~15:30 / 会議室 ■一般 / 20名 / 無料
2013 2 FEB.	《ワークショップ》【企画展関連】 「色のふしぎ・わくわく色あそび」(フナイ氏)	■3月9日(土) 14:00~16:00 / 会議室 ■小学生以上~一般 / 20名 / 無料 ※申込期間2月23日(土)~(電話申込・先着順)
	《民俗講座》 鳥取県内の棟札(1)神社の棟札	■3月10日(日) 14:00~15:30 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
	《ギャラリートーク》 写真コレクション展	■3月16日(土) 14:00~14:30 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
2013 3 MAR.	《歴史講座》 とっとり城下町ウォーク-行徳周辺-	■3月20日(水・祝) 9:30~12:00 ■一般 / 20名 / 無料
	《公開研究会》 県民と学ぶ最新の鳥取藩研究(仮称)	■3月23日(土) 13:00~16:00 / 講堂 ■一般 / 250名 / 無料
	《アーティストトーク》【企画展関連】 フナイタケヒコ展	■3月23日(土) 14:00~15:00 / 展示室 ■高校生以上~一般 / 定員なし / 観覧料
2013 3 MAR.	《アートシアター》 ヤン・ファブル:青の時間(90分)	■3月30日(土) 14:00~15:30 / 講堂 ■高校生以上~一般 / 250名 / 無料

※特に記載のないものは申込不要です。*講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。
※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。
※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。*申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。

鳥取県立博物館ニュース
MUSEUM PRESS No.14
平成24年(2012年)9月14日発行
編集・発行 鳥取県立博物館
住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp



JR鳥取駅からバスで
100円バス「くる梨」青コース
「⑤仁風閣・県立博物館」下車すぐ
ループ麒麟獅子Aコース(土・日・祝日のみ)
「④鳥取城跡」下車すぐ
砂丘・湖山・賀露方面行
「西町」下車約400m
市内回り岩倉・中河原方面行
「わらべ館前」下車約600m



■JR鳥取駅からタクシーで約10分
■当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)

MORRIX 株式会社 モリックスジャパン
鳥取市商栄町203-6
TEL 0857-23-3641

引越しは日通
0120-154022